



ブラジルの格下げについて

米格付け会社スタンダード&プアーズ(S&P)は9日、ブラジルの長期外貨建て債務格付けを「BBBマイナス」から「BBプラス」に引き下げました。これにより、同国の長期外貨建て債務格付けは投資適格級でなくなりました。今回の格下げ後も、アウトルック(格付け見通し)は「ネガティブ(弱含み)」としていることから、今後さらに引き下げられる可能性もあります。格下げの理由について、政治問題が深刻化し経済政策が混乱しているためと説明しており、更なる財政状況の悪化および長期化が見込まれるとしてアウトルックもネガティブとしております。

また、格付け会社フィッチ・レーティングスは2日の最新レポートで、景気後退に加え、財政赤字の高止まりが背景にあるとの指摘から、ブラジルの格下げのリスクが高まっていると警告していました。一方、米格付け会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスは、先月、ブラジルの信用格付けを投資適格級で最も低い「Baa3」に引き下げました。ただし、ブラジルは格付けがより低い国に比べて信用力や優位性があり、経済と財政の回復見通しからするとブラジルをジャンク級(投機的水準)に格下げすることは正当化されないと指摘し、アウトルック(格付け見通し)は「ステーブル(安定的)」としております。

格下げを受け、通貨レアルの下落が進み、政策運営の足かせとなっているインフレ圧力を一段と強める懸念が高まっており、景気後退に陥っているブラジルの資金繰りは悪化する可能性があります。市場の信頼と景気の回復に向けたルセフ大統領の取り組みに打撃となるとみられ、多くの投資家は投資適格級でない資産への投資が認められていないことから、ブラジルは貴重な財源も失うこととなります。更には、政府と企業の借り入れコストは上昇する見通しです。レビ財務相率いる経済チームには歳出削減ないし増税を実施して財政健全化を進めるよう圧力が加わることでしょう。2016年夏のリオデジャネイロ五輪を控えて経済・財政の早期再建を目指すルセフ政権は、厳しい政策運営を迫られると見ております。

各格付け会社によるブラジル(長期外貨建て債務)の格付け推移

	S&P	ムーディーズ	フィッチ
2015年9月9日	BB+ 見通しネガティブ		
2015年8月11日		Baa3 見通し安定的	
2014年3月24日	BBB-		
2011年11月17日	BBB		
2011年6月20日		Baa2	
2011年4月4日			BBB 見通しネガティブ
2009年9月22日		Baa3	
2008年5月29日			BBB-
2008年4月30日	BBB-		
2007年8月23日		Ba1	
2007年5月16日	BB+		
2007年5月10日			BB+

* 出所: S&P、ムーディーズおよびフィッチのデータより BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社作成

本資料のお取り扱いにおけるご注意

- 本資料は BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が上記の時点に作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における統計等は、当社が信頼できると思われる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。
- 本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

